

ハウレンソウケナガコナダニ

○被害と発生生態

本種は、ハウレンソウの新芽に寄生し、葉が展開するとこぶ状の小突起が生じて奇形となる。被害の激しい株は芯止りとなり、収穫が皆無となる。発生時期は春（1月～6月）、と秋（9月～12月）の2回であり、夏には被害が少ない。本種は2～4葉期頃からハウレンソウ株に寄生するが、4葉期頃までは被害の確認が困難である。

本種の体長は約0.4mmで体色は乳白色である。なたね油かすは好適餌である。完熟した堆肥では増えにくい。施設栽培のハウレンソウでのみ顕著な被害が発生する。本種は7℃以上の温度で生育し、低温には強く高温に弱い。10～15℃では産卵数が多くなる。通常は土壌表面から5cmまでの浅い所で生息するが、乾燥すると土壌深層やハウレンソウ株等へ移動する。北海道から沖縄まで全国的に広く分布する。

○防除方法

(ア) 耕種的・物理的防除

ハウレンソウ圃場の土壌の過乾を抑える。堆肥は秋～冬施用を避け、6月頃に施用する。冬期に利用しないハウスはビニールを除去する。堆肥は完熟させたものを施用する。増殖源となるハウレンソウの残渣は除去する。収穫までの期間が短い品種を栽培する。

(イ) 薬剤防除

* 「コナダニ見張番」を利用すると発生確認が容易になる。

○前作の収穫期に発生を確認した場合は、

土壌消毒（播種前粒剤散布）と2葉期と4葉期に2回散布剤による防除を実施する。

土壌消毒を未実施の場合は、子葉期から早めの散布剤による防除が必要となる。

○前作の収穫期に発生がなかったが、2葉期～4葉期に発生を確認した場合は、早急に散布剤を2回散布する。

* 薬剤散布は300g/10aをハウレンソウ株に加え、土壌へもたっぷり散布する

* カスケード乳剤等は機能性展着剤（アプローチBI等）を添加すると効果が向上する。

* 薬剤散布は、前日に灌水した後に散布した方が、防除効果が高い。



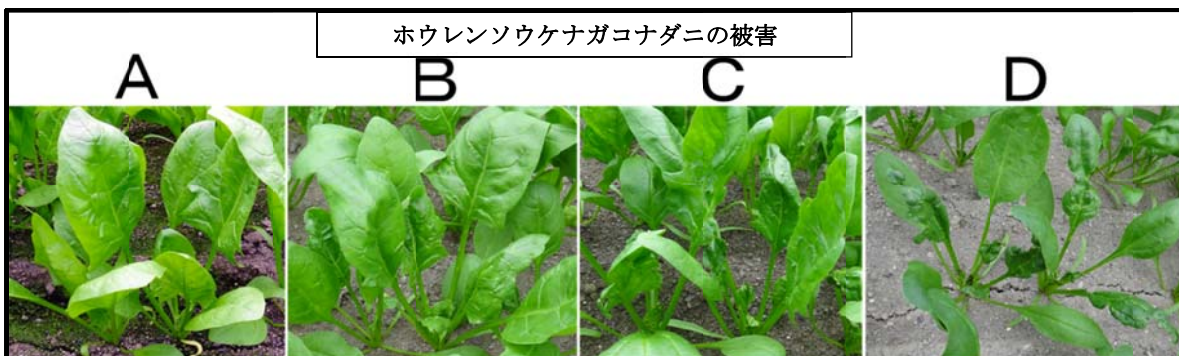
ハウレンソウケナガコナダニ



ハウレンソウの新芽付近の加害



コナダニ見張番



A：被害なしの株数

B：コナダニによる奇形葉2枚以内の株

C：奇形葉3～4枚で中心部の褐変はなし

D：奇形葉の数は多く中心部が褐変し、芯止りの株